



2016年 春号

URL : <http://www.karashi.net/>

～三猿化の瀬戸際に立つ日本人～ 民主主義の危機をもたらす「知る権利」の喪失

私たちはテレビ、新聞などのメディアを通して、いま社会で何が起きているかを知ることになります。一方的に偏った情報を聞かされ続けると、意識しないうちに「洗脳」されてしまう弱さと怖さを持っているのが私たちです。

今から 20 年前、アフリカ・ルワンダで起こった大量虐殺時においてもメディアは大きな役割を果たしました。フツによる国家を作りたいという野望をもったフツ急進派は、占拠したメディアを用いて「ツチはゴキブリだ。皆殺しにせよ」と扇動し続けたのです。結果、時流に流された一般市民も急進派に同調し、100 万人虐殺という悲劇が起こったのです。

世界経済のトップ 3、しかも言論・報道の自由が保証されている「はず」の日本です。しかし世界各国で報道機関の活動と政府による規制の状況を監視している「国境なき記者団」が公表した「世界報道自由度ランキング」によると、日本は 180 カ国中 61 位とかなり低い順位になっています（2015 年）。民主党政権が誕生した 2010 年には最高の 11 位を獲得していた日本ですが、2011 年の東日本大震災と福島第一原発事故後 2012 年のランキングでは 22 位に下落、2013 年には 53 位、2014 年には 59 位、そして 2015 年にはついに過去最低の 61 位を記録、報道の自由に「顕著な問題を抱える国」と指摘されるレベルに転落したのです（朴槿恵大統領をめぐる報道で産経新聞前支局長を在宅起訴した韓国でさえ 60 位）。

昨年 12 月 1 日～8 日「国連・表現の自由」を担当するデービッド・ケイ特別報告者が来日し日本での現地調査を行うことが決まっていたのですが、日本政府の突然の要請によって延期されるという事態も起きました。「特定秘密保護法」や政府によるメディア介入などが取り上げられるのを避けたのではと勘ぐられても仕方ないのかも知れません。

時流に流されて「見ザル、聞かザル、言わザル」になるのではなく、メディア報道の背後にあるものをしっかりと見極める英知が求められているのではないのでしょうか。

「声なき者の友」の輪 神田英輔

* FVI の働きは皆さまからのご支援に支えられているカタリストによって担われています。カタリストをご支援くださる場合は、振り込み用紙に「神田指定」などとカタリスト名をご明記ください。